

科目名	刑法総論	科目分類	■専門科目群 □総合科目群		
			総合政策学部	□必修	■選択
			学科	□必修	□選択
英文表記	Criminal Law General Principles	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年		
		開講期間	□前期 □後期 ■通年 □集中		
ふりがな	おかざき しょうへい	実務家教員担当科目		修得単位	4単位
担当者名	岡崎 頌平	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	犯罪と刑罰に関する基礎知識の習得				
到達目標	受講者は、本講義を履修することによって、刑法の基本原則、犯罪と刑罰に関する基礎知識の習得ができます。				
授業概要	本講義では、犯罪と刑罰に関する基礎知識を学習します。まず、刑法の基本原則を概観した後に、一般的な犯罪成立要件を確認しながら、あわせて犯罪成立を妨げる（阻却する）事由についても確認します。次に、刑罰論についても学習します。また、本講義では、主にレジュメに基づいて授業を行います。				
授業計画					
第1回	イントロダクション	第17回	正当防衛②（過剰防衛）		
第2回	刑法の意義・機能	第18回	緊急避難		
第3回	刑法の歴史①（ヨーロッパ）	第19回	責任主義		
第4回	刑法の歴史②（日本）	第20回	責任能力		
第5回	罪刑法定主義①（沿革）	第21回	故意・錯誤論①（具体的事実の錯誤）		
第6回	罪刑法定主義②（内容）・刑法の適用範囲	第22回	錯誤論②（抽象的事実の錯誤）・違法性の意識		
第7回	犯罪論の体系	第23回	過失・期待可能性		
第8回	行為論・構成要件論①（概論）	第24回	未遂①（実行の着手）		
第9回	構成要件論②（要素）・犯罪の分類	第25回	未遂②（不能犯・中止犯）		
第10回	因果関係論	第26回	共犯①（概論）		
第11回	不作為犯	第27回	共犯②（共同正犯・教唆犯・従犯）		
第12回	違法性論①（概論）	第28回	共犯③（共犯の諸問題）		
第13回	違法性論②（可罰的違法性）・法令行為	第29回	罪数論		
第14回	正当業務行為・被害者の同意①（法的地位）	第30回	刑罰論		
第15回	被害者の同意②（推定的同意）・安楽死・尊厳死	第31回	定期試験		
第16回	正当防衛①（要件）				
授業時間外の学習	各回の授業で扱う内容について教科書の該当箇所をあらかじめ読むこと。（予習：120分） それぞれの回で扱った内容について、レジュメ等を使って振り返ること。（復習：120分） ※レジュメはポータルサイトを通じて配布するので、確認すること。				
履修条件 受講のルール	ポータルサイトを通じて事前配布されるレジュメを取得して（授業中に配布しない）、授業中に見ること（レジュメについては必ずしも紙である必要はなく、デジタルデータでも構わない。デジタルデータの場合には、ノートパソコンやタブレットを持参の方が都合がよいと思われる。）。 最新の六法を持参すること。				
テキスト	①井田良『入門刑法学・総論[第2版]』有斐閣（2018年） ②亀井源太郎ほか『刑法I 総論[第2版]』日本評論社（2024年） ③松原芳博『刑法概説[第2版]』成文堂（2022年） ④井田良ほか『刑法ポケット判例集』弘文堂（2019年） 教科書としては一応①を指定するが、②・③でも構わない（③は総論及び各論の両方を扱う1冊本である）。 また、授業に際しては判例集があると理解を助けるので、一応④を指定するが、参考文献に記載した他の				

	判例集でも構わない（図書館等を利用して自分に合ったものを選んでほしい）。
参考文献・資料	十河太郎ほか『刑法総論判例 50!』有斐閣(2017年)；佐伯仁志ほか『刑法判例百選 I〔第 8 版〕』有斐閣(2020)；山口厚ほか『判例刑法総論〔第 8 版〕』有斐閣(2023)；井田良『講義刑法学・総論 第 2 版』有斐閣(2018)；松原芳博『刑法総論〔第 3 版〕』日本評論社(2022年)
成績評価の方法	定期試験 80%、小テスト（もしくは中間試験） 20% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜 3・4 限
成績評価の基準	秀(100～90 点)、優(89～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)
実務経験及び 実務を活かした 授業内容	
学生への メッセージ	予習でテキストを読む際は、ぜひ疑問点などをメモして、講義に臨んでください。